

平成18年度川崎市立労働会館(サンピアンかわさき)の管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	アゼリアプロジェクト(東京都豊島区東池袋三丁目13番3号)
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	・会館の維持管理、ホール、会議室の貸し出し、自主講座の開講、自主事業の実施、利用料金の徴収に関すること。

2 運営・利用状況

評価項目	平成18年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 講演会・講座等の開催に関する業務	① 講演会開催に関する業務 ア マンション管理士資格取得に関する講演会 開催日:平成18年4月8日 事前申込者数:74名 当日参加者数:58名(参加率78.4%) イ ファイナンシャル・プランニング技能士資格取得に関する講演会 開催日:平成18年9月16日 事前申込者数:41名 当日参加者数:35名(参加率85.4%)	安定した市民ニーズに支えられ、高い参加率を維持した。市民のニーズに沿った事業企画等により、19年度も一層の創意と工夫を凝らした魅力的な講演会を行うこと。
	② 講座開催に関する業務 ア 日商簿記3級検定試験準備講座 4/13～5/29 12回(月・木) 受講者数:20名 本試験受験者数:5名 合格者数:1名(20%) イ マンション管理士資格試験準備講座 4/19～11/8 25回(水) 受講者数:20名 本試験受験者数:8名 合格者数:0名(0%) ウ 宅地建物取引主任者資格試験準備講座 4/14～9/5 27回(火・金) 受講者数:35名 本試験受験者数:10名 合格者:5名(50%) エ 日商簿記2級検定試験準備講座 7/20～10/30 27回(月・木) 受講者数:25名 本試験受験者数:9名 合格者2名(22%) オ ファイナンシャル・プランニング技能士3級資格試験準備講座 9/30～12/23 12回(土) 受講者数:26名 本試験受験者数:5名 合格者数:不明	市民を対象に、資格取得のため、実用性の高い講座を中心に開催した。19年度はより一層魅力的な講座を開講し、幅広く広報活動を行っていくこと。
	③ 労働資料の収集・閲覧業務 労働資料室の利用による、市民への労働に関する情報の提供、資料の収集管理及び資料の利用相談を行った。 労働資料室利用者数合計1,999人(前年度2,245人)	情報提供の方法について工夫するとともに、労働資料室の定期的な整理を行うなど、誰もが利用しやすいものにする。
	④ 川崎労働学校の実施 第102期川崎労働学校 メインテーマ「やさしく学ぶ労働法と社会保障」 10/12～12/14 全15回 受講者数57名(前年度78名)	19年度も、労働者の学ぶ場として、市民のニーズ及び時代のニーズに合ったテーマを取り上げ、質の高い労働学校開催を図ること。また、受講者数増加に向けた広報活動を行っていくこと。
	⑤ 自主事業公演の開催 昭和26年の設立から今年で55年目に当たることから、「創立55周年記念 市民感謝祭」と銘打ち市民感謝祭としてコンサートを開催した。コンサートは、津軽三味線・パーカッション・尺八の和洋ユニット『未来』による、演奏と楽しい唱和、パフォーマンスを約2時間行った。	シンプルな中にも情熱あふれるサウンドにのせて、演じ手と市民が一体となるコンサートを開催した。コンサート開催により、今まで訪れなかった市民にも裾野を広げ、また、開催はマスコミ等で取り上げられるなど、会館の知名度獲得に貢献した。
(2) 施設等の利用許可(貸館)に関する業務	① ホールの利用 各種講習、定期総会やカルチャーをはじめ、地元小中学生による合唱コンクールも開催されるなど、幅広く市民に利用された。 利用件数:454件 利用率:44.4%(前年度42.7%)	ホール利用率の目標達成には至らなかったが、利用率は前年度比1.7ポイント上昇している。利用状況等を分析しながら、平日における利用率アップを検討し、目標値に近づけるよう貸館公演の誘致や利用拡大に努めること。
	② 会議室等の利用 各種会議や講習会による企業の会議室平均利用率は30.1%(前年度26.1%)、研修室平均利用率29.6%(前年度25.8%)、カルチャー等の利用による教養室平均利用率29.2%(前年度27.7%)であった。	会議室等利用率の目標達成には至っていないが、前年度に比べ、平均利用率3.1ポイント上昇した。今後も利用状況等を分析し、目標値に近づけるよう貸室の利用拡大・向上を図ること。
	③ 交流室等の利用 ヨガや会議、宴会等の多目的利用が可能な交流室等の平均利用率は、14.0%(前年度7.6%)であった。	交流室等利用率の目標達成には至っていないが、前年度に比べ、平均利用率6.4ポイント上昇した。今後も多目的利用の特性を踏まえた、利用拡大・向上を図り、目標値に近づけるよう努めること。

3 維持管理状況

評価項目	平成18年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 施設等の維持・管理に関する業務	①施設全体の維持・管理業務 施設等の日常点検・定期点検、清掃業務・環境衛生業務、警備・空調等の管理業務等に対して適正な管理を実施した。	業務仕様書、保守管理基準に基づき、良好な管理業務が行われている。19年度も質の高い業務及び効率的な管理を図ること。 「従業員ミーティング」は、CS向上のための運営組織として、内容面を含め、きちんと実施されていると評価できる。19年度も、取り組むべき課題を明確にした上で、利用者の立場に立ったサービスの提供に努めること。
	②ホール利用者に対するサービス業務 一人で何役もこなしていけることを目的に毎月テーマを決めて従業員ミーティングを実施している。これにより、舞台装置をはじめハード面の管理・利用案内など、利用者へ質の高いサービスを提供した。	
	③会議室・交流室利用者に対するサービス業務 従業員ミーティングを活用し、各室諸設備等の管理・利用案内等に対して誠実に業務を実施した。	
(2) 管理執行体制	①人材の育成 効果的かつ効率的な事業運営を図るため、人材育成教育(従業員ミーティング)を実施し、待遇向上等を図った。また、情報の共有化をはかるため、月2回の全部門責任者を招集しての館内会議を実施した。	館内業務の質向上に資する適正な人材育成教育を行っている。今後も職員の意識改革と資質向上に繋がる研修体制等の充実を図ること。また、館内会議の有効活用を図ること。

4 収支状況

評価項目	平成18年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 経費等の収支状況	①〔収入〕自主事業及び貸館等利用料金収入 自主事業収入は、当初予算422,000円に対して予算比254.8%の1,075,200円の収入を上げた。貸館等の利用料金収入は、当初予算の36,635,000円に対して予算比93.5%の34,267,235円の収入であった。結果として当初予算204,041,000円に対して予算比99.2%の202,326,435円の収入であった。	若干ではあるが、予算を下回る収入であった。19年度においては、更なる利用料金収入の安定と増収への取り組みを図ること。
	②〔支出〕事業費 資格取得準備講座・自主事業費は、当初予算の5,100,000円に対して予算比100.9%の5,146,272円で事業を行った。	ほぼ予算どおりの支出であり、19年度も魅力ある講座等を効果的、効率的に実施すること。
	③〔支出〕管理費 人件費、管理費、事務経費及びその他消耗品は、当初予算198,941,000円に対して予算比92.4%の183,766,524円と抑制することができた。	管理費を抑制したことは評価できる。19年度も引き続き堅実な業務執行に努めること。

5 その他

評価項目	平成18年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 来場者からの意見・要望等の対応	①ホール関係 ホールロビーに休憩用のいすが欲しい等の意見・要望等に対し、喫茶室の洋画下に長いす1脚、ソファーいす6脚を休憩場所として設定し、解決を図った。	いすの増設要望に対し速やかに対応するなど、概ね適切な対応ができています。19年度も利用者のサービス向上に努めること。
	②会議室・交流室等関係 貸室利用料金への不満や洋式トイレの少なさへの不満等の意見・要望等に対して、管理者として迅速適切な回答を行った。また、トイレ表示の充実を図る等適切な対応によって解決を図った。	トイレに関する要望に対して、速やかに表示対策をとるなど、概ね適切な対応ができています。19年度も利用者のサービス向上に努めること。
	③館内職員対応 職員の待遇への不満や講座講師への不満等の意見・苦情等に対して、管理者として職員の待遇向上のための研修を行い、また、講座委託先への改善要請を行う等、適切な対応によって解決を図った。	館内会議などで、情報の共有化を図るなど、概ね適切な対応が行われている。19年度においても、職員の意識改革と資質向上を図り、連携した素早い対応に努めること。
(2) 個人情報の保護	①個人情報の適正管理 当館を利用される多くの市民の個人情報を保有しているため、取扱いについてはすべての法令等を遵守するとともに、善良な管理者としての注意を払った。また、いかなる理由によっても情報を漏らさないよう職員教育等必要な措置を講じた。	川崎市個人情報保護条例を始め、関係法令の遵守がなされている。19年度も研修教育をはじめ、業務委託先企業も含めて個人情報の保護の徹底を図ること。

6 管理運営(事業執行)に対する全体的な評価

<p>指定管理者であるアゼリアプロジェクトは、指定管理初年度となった18年度を「ご存知ですか “サンピアンかわさき”」のスローガンの下、働く市民や労働組合その他の諸団体に対し、サンピアンかわさきの存在を認知してもらうための重要な年度であると位置付け、公演の企画や施設の管理業務等を遂行していた。</p> <p>その結果、18年度の施設利用者数は、272,294人となり、前年度より21,033人の増加となった。また、各施設の利用率についても、目標利用率を達成することはできなかったものの、前年度比で全ての利用率が増加となっており、初年度ということもあり、一定の評価をすることができる。</p> <p>自主事業においては、「創立55周年記念 市民感謝祭」の開催により、今までに来館されたことのなかった市民の方々にも広く認知され、ホールの稼働率と採算性の確保へ寄与するとともに、サンピアンかわさきの周知に貢献した。講座は、資格取得のため、実用性の高い講座を中心に開講し、総計135名の受講生が学び、また、第102期目を迎えた「川崎労働学校」も57名が受講し、25名の修了生を送り出すことができた。</p> <p>指定管理者の管理運営事業である自主事業や講座、施設管理・サービス等が適切に行われたことにより、市民の皆様から、働く市民の「いい」「語らい」「学びあう」ための施設として認知され、一定の評価を受けることができたと思える。</p>
--

7 来年度の管理運営(事業執行)に対する指導事項等

平成19年度は、指定管理2年目にあたり、「サンビアンかわさき」を市民の皆様により広く、また、より身近に知っていただく第1ステップの完成年度となるため、魅力的な自主事業や講座を展開するなど、さらなる知名度獲得に向けた実績づくりに一層努めること。また、引き続き各施設の利用率の向上を目指し、特に、交流室については、より一層、多目的利用の特性を踏まえた利用拡大・向上、広報の工夫・充実について検討すること。

また、業務の達成度を明確にし、職員が業務に積極的に取り組めるよう、目標設定できる事項に関しては、数値目標を定め、達成に向けて取り組むこと。